



5月20-23日の日程で、ボストンで開催されたFSG主催のシェアード・バリュー・トレーニングとシェアード・バリュー・サミットに参加してきました。

FSG (Foundation Strategy Group) は、CSV/シェアード・バリューを提唱しているマイケル・ポーター、マーク・クラマーが設立した団体で、CSV/シェアード・バリューの総本山と言っても良いでしょう。FSGは、“Shard Value Initiative”というグローバルで本格的にシェアード・バリューを広める活動を開始しており、今回は、その一環として世界中からシェアード・バリューを推進している人たちを呼んで、トレーニングを開催しました。

トレーニングは、20-22日の日程で行われ、マーク・クラマーをはじめとするFSGのマネジメントによる講義を聴いた後に、参加者でケース・スタディに基づき議論するというスタイルでした。

FSGのこれまでの経験に基づいて構築されたフレームワークの講義、実際のプロジェクトをベースとしたケース・スタディで、かなり実践的な知識を得ることができました。

しかし、講義やケース・スタディというオフィシャルなプログラムよりも多くの時間が、参加者によるディスカッションに費やされました。欧州、北米、中南米、アジア・オセアニアの多数の国から参加者が来ており、皆さんそれぞれに経験、考えを持っているため、放っておくと何時までも議論している感じでした。

お陰様で、世界のシェアード・バリューの現状が良く分かりました。多くの国は、日本と同じで、サステナビリティの担当者を中心に一部の人が関心を持っている萌芽期のようなようですが、サムスンが専門のプロジェクトチームを設置するなど大手が関心を持つ韓国などは、少し先に進んでいるようです。

FSGも特にグローバルでの経験が豊富なので、途上国を中心としたグローバル展開におけるシェアード・バリューの実践などでは、今後協力できそうです。

23日は、ボストンのホテルで「シェアード・バリュー・サミット」が開催されました。サミットは、今回が第3回になります。今回の参会者は200人程度で、それほど大規模とは言えませんが、それでも第1回、第2回と比べれば大幅に参加者は増加し、参加者の国籍なども広がっているようです。

今回のシェアード・バリュー・サミットは、マイケル・ポーターのプレゼンテーションから始まり、マイケル・ポーターとネスレ会長の対談、シェアード・バリューのサポーターであるクリントン元米大統領のビデオメッセージなど、内容は豪華なものでした。シェアード・バリューを推進するプレーヤーは今のところ限られています。粒ぞろいと言えるでしょう。

マイケル・ポーターやネスレ会長の話にも出てきましたが、米国でも昔は、企業は社会に価値を生み出すものという考え方が一般的でした。しかし、4半期報告をはじめとする短期利益主義により、企業と社会との関係が崩れており、シェアード・バリューはそれを修復するものです。ネスレは、4半期報告をやめる、投資の意思決定プロセスに組み込むなど一貫した活動を推進しており、4-5年はかかったようですが、今ではほとんどの社員がシェアード・バリューを理解するようになっているようです。

今回のボストン出張での収穫は、世界の各地域でシェアード・バリューの重要性の認識が高まっており、グローバルでの本格的展開が始まりつつある状況が理解できたことでしょうか。国内では、シェアード・バリューの推進役を担うつもりですが、これからの展開が楽しみです。

以上